古着deワクチンの使い方と仕組み

1 専用回収キットを購入

洋服などを送付するための「専用回収キット」を「古着deワクチン」のHPから3300円（税込）で購入し取り寄せます。中には、薄手の洋服が約100着入る大きな衣類回収袋が折りたたまれて入っています。

専用回収キットを送る

専用回収キットをHPから注文

2 送る洋服の選別

クローゼットで眠っていた状態のいい洋服や服飾雑貨を衣類回収袋に詰めていきましょう。夏物冬物から、子ども服、マタニティ服までジャンルレス。かつ靴もOK。下着や寝具、ぬいぐるみなど送付NGのものもあるのでHPで確認を。

3 集荷を依頼し発送

インターネットもしくは電話にて集荷を依頼してください。（詳しくは専用回収キットに同梱されているご案内をご確認ください）。佐川急便のドライバーさんが着払い伝票を持って集荷に来るため、伝票の用意は不要です。

FURUGI de vaccine
古着deワクチン

専用回収キットは福祉作業所でつくっています。

輸出準備

千葉県木更津市にあるセンターで、集まった洋服などの輸出準備を行っています。笑顔が絶えないセンターで、フィリピン出身のスタッフが、洋服を大切に扱いながら輸出に向けた作業をしています！

店頭で洋服などが1点売れるごとに1人分のポリオワクチンを寄付

認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会

一口につき5人分のワクチン寄付ができます

障がい者アート協会 所属アーティスト

一般社団法人 障がい者アート協会

それぞれに著作権料が支払われます

庫美原さん
くらみはら・1978年生まれ。生まれつきの視覚障がいがあり、指で触面することが多い。

カンボジアの人たちが働ける場をつくります

カンボジアにある直営店では日本から届いた洋服などを販売したり、季節や気候に合わせて選別を行い世界各国へ輸出を行ったりしています。スタッフはポリオによる障がいがある方やかつてゴミ山で暮らしていた若者たち。働いて収入を得られるだけでなく、生きがいにもつながっています。

開発途上国の子どもたちにポリオワクチンを届けます

専用回収キットをひとつ購入すると、5人分のポリオワクチン代が「認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会（JCV）」へ寄付されます。「JCV」を通してミャンマー、ラオス、ブータン、パタアツの子どもたちにポリオワクチンが届けられています。

障がい者アーティストの活動をサポートします

「一般社団法人障がい者アート協会」と連携し、衣類回収袋に使用するデザインのコンクールを実施。障がい者アーティスト・庫美原さんの作品「たまのお」が衣類回収袋にあしらわれています。専用回収キットの販売個数に応じて著作権料を支払うことで、活動支援になっています。

レビュー投稿でも1ワクチン！

古着deワクチンが生み出す生きがい

Poy Davan
ダバン（19）
やさしい両親のためにも、家族のことを支えられる自分に

「小さいころからゴミを拾い街を売って生活していました。成長して貧しさに気づいたときは辛かったけど、まじめでやさしい両親のことが大好きです。今はみんなで仕事ができるのがうれしい。一生懸命働いて家族のことを支えたいです」

Rous Stey La
スレイラ（20）
成長できる機会に感謝。母の治療代を稼ぎたい

「ゴミを食べ、ゴミ山で拾った缶を売って家族を助けながら暮らしていました。母の体調が悪いのにお金がなくて、治療代を稼ぎたいとゴミ山を出ました。職業経験がなかった私に成長できる機会を与えてもらえてうれしいです」

Yong Phay
パウ（21）
障がいで諦めていた優れの仕事。これから自信に変えていきたい

「ポリオの後遺症で両脚が曲がった状態なので、やりたい接客業やアパレル店員の仕事は不採用で、涙を売ったりしていました。障がいがあるけどできること、障がいがあるからこそできることを感じて自信に変えていきたい」

Chiem Soty
ソディ（32）
障がいがある自分に与えられたチャンスを生かして頑張りたい

「ポリオの後遺症で右足に障がいがあるので、これまでは"障がいがあるからどうせできない"と思われ、自分でお金を稼ぐチャンスに恵まれず生きてきました。この仕事が人生最大のチャンスだと思うと毎日が楽しいです」

カンボジアの直営店で働くみなさんは、貧困生活や障がいで苦労してきました。店頭で商品を売ることにワクチンが寄付されるため、支援される側から支援する側にもなり、彼らのエンパワーメントを進めています。

［お問い合わせ先］「古着deワクチン」コールセンター（受付時間 9:00〜17:30）
注文専用電話番号 0120-126-316
お問い合わせ電話番号 0120-206-225
https://furugidevaccine.etsl.jp

Japan. Committed to the SDGs | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

古着deワクチンで社会貢献
笑顔につながる洋服の手放し方

捨てるにはもったいない、譲る人もいない、クローゼットに眠ったままの洋服たち。「古着deワクチン」を利用して手放すと、世界のどこかで誰かが着てくれるだけでなく、ポリオワクチンの寄付や障がいがある方の支援になり社会貢献につながります。

photograph: Kentaro Hisadomi　styling: Naoko Gencho　hair&make-up: Yoko Fuseya[ESPER]　text: Nao Yoshida

「サイズアウトした愛着ある娘の服。手放し方に困っていましたが、見つけました。」

NAOKO GENCHO
玄長なおこさん
本誌をはじめファッション誌を中心に活躍するスタイリスト。着やせや着まわしなど真似したくなるスタイリングが人気。

ワンピース¥20,900／ロワズィール（ロワズィール）

部屋が整うだけでなく、社会貢献になる充足感

年齢を重ねたり、子どもが成長したり、少しずつ増えていく袖を通さないままの洋服や服飾雑貨。日本人が年間で手放す洋服は平均で一人あたり12着、国民全体で15億3700万着。その一方でリユース率はたったの2割。年間約10億着が廃棄されているのです。少しでも意義のある手放し方をするために注目なのが「古着deワクチン」。

専用の衣類回収袋を利用して送った洋服などはカンボジアをはじめとする開発途上国を中心に輸出。カンボジアの直営店では現地のストリートチルドレンだった若者や障がいがある方たちが中心となって販売し、雇用創出につなげています。さらに専用回収キット一口につき、5人分のポリオワクチンが寄付されます。ほかにも、障がい者アーティストの活動支援にも。

同じ「手放す」という行為も、ただ捨てるのとは異なり自分の物がどう役に立っているのか行先がわかる会社にゆだねることは、安心感につながります。いつもの選択を少し変えるだけで部屋がスッキリするうえ、誰かの役に立つ喜びで自分自身も満たされるはず。

GENCHO's COMMENT
玄長さんが思ったこと

顔の見えない誰かのために、責任ある手放し方をしたい

以前無償で回収されたダウンが熱帯の国に送られていると聞いたことがあり、寄付に抵抗があったのですが、「古着deワクチン」は国の気候や季節、特性などに合わせて選別して送られていると聞いたので、安心して手放せると思いました。なかなか引き取ってもらえない靴を送ってOKというのもうれしいです。